

令和 5 年 2 月 24 日

教 育 長 様

| |
|---------------------|
| 研究コース |
| B グループ研究B |
| 校園コード (代表者校園の市費コード) |
| 731660 |
| 選定番号 |
| 225 |

| | | |
|-----|----------|--------------|
| 代表者 | 校 園 名 : | 大阪市立東粉浜小学校 |
| | 校園長名 : | 津田 毅 |
| | 電 話 : | 06-6672-0313 |
| | 事務職員名 : | 玄甫 優介 |
| 申請者 | 校 園 名 : | 大阪市立東粉浜小学校 |
| | 職 名・名前 : | 校長・津田 毅 |
| | 電 話 : | 06-6672-0313 |

令和4年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和4年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

| 1 | 研究コース | コース名 | B グループ研究B | 研究年数 | 新規研究 (1年目) |
|---|-----------|---|-----------|------|------------|
| 2 | 研究テーマ | 音楽のよさを追い求めて ～知覚・感受から表現へ～ | | | |
| 3 | 研究目的 | (1) 大阪市小学校教育研究会音楽部として、長きにわたって大阪市の音楽教育に貢献してきた研究実績を継続させ、今後の更なる教育実践の深化・充実に寄与することを目的とする。 (2) 情操教育の根幹を担う音楽を媒体として、多様化し、変化する社会の中で「生き抜く力」を備え、未来を切り拓く心豊かな子ども達を育む音楽活動のあり方について研究を深める。 (3) 新学習指導要領でめざす見方・考え方を働かせた学びができる児童を育成する授業を、「知覚」と「感受」をキーワードに追究する。 | | | |
| 4 | 取り組んだ研究内容 | いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSコシク 9.5ホイント) 今年度は昨年度までの研究の成果と課題を踏まえて、「知覚」と「感受」をキーワードとし、それを共通事項である「音楽の構造」から結び付けていくことが重要と考え、「音楽のよさを追い求めて～知覚・感受から表現へ～」を研究主題として研究を始めた。 研究を始めると同時に、来年度開催予定の近畿音楽教育研究大会大阪大会総合大会に向けての準備も始めた。改めて学習指導要領に基づき来年度の大会の研究主題を検討した結果、大会主題を「心が動く音楽の力 未来を拓く音楽の学び」とした。これは、音楽科の学習(音楽活動の楽しさの体験)を通して音楽に対する感性を育み、音楽科で身に付けた資質・能力を生かして、未来の大阪を拓く子どもたち(自分と、自分を取り巻く人や社会を幸せにできる)を育てるという思いを込め設定した。それを受けて小学校部会の研究主題を「音楽との出会い、つながり、深まり～歌唱共通教材から広がる音楽～」とあらためて設定した。 そこで、学習指導要領の趣旨を生かすために昨年度までに改良した学習指導案様式を、さらにあらたに検討、作成し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりについて研究するとともに、ルーブリックを作成するなど学習評価についても充実できるように工夫した。 歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の4領域部会体制で、新たに設定した次の3つの視点のもと、研究を進めることとした。 [視点1] 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質能力の育成 [視点2] 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくり [視点3] 学習評価の充実 来年度の研究大会に向けて、新しい授業の指導案、評価のありかたについて、4領域部会でそれぞれ研究実践を持ち寄り、討議し、研究を進めた。また各領域部会ごとにteamsも活用しながら授業研究会を行い、指導法の研究を深めた。 歌唱共通教材を中心にした(歌唱共通教材から発展する)授業づくりを研究し、教材(曲)を分析し、身につけさせたい力を明らかにし、音楽活動の時間配分を工夫した。評価についてはルーブリックを作成した。高学年は年間50時間という限られた時数しかないので子どもたちが思いや意図をいかした表現をするために必要な技能を育むために参考となる「常時活動」についても共通理解を深め、基礎・基本となる力の育成にも努めた。 また、報償費を活用し、各領域部会に著名な講師先生をお招きし、研修会を持つなどして、各部員の理解を深め、研鑽を積み、資質向上にも努めた。 | | | |

| | | | | | | |
|---|------------------|--|---------------------------|--|------|---------|
| 5 | 研究発表等の日程・場所・参加者数 | 研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。 | | | | |
| | | 日程 | 令和 5 年 2 月 3 日 | | 参加者数 | 約 320 名 |
| | | 場所 | 大阪市立東粉浜小学校・大阪市立玉造小学校 | | | |
| | | 備考 | 三つを避けるため、2会場において2領域ずつ発表した | | | |
| 6 | 成果・課題 | 大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。 | | | | |
| | | 【見込まれる成果1】 音楽的な見方・考え方を働かせ、聴き取ったことや感じ取ったことを音楽の構造と結び付けて考えることで、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてその良さを見出したりする、思考力・判断力・表現力が育成される。 《検証方法》 「聴き取ったことや感じ取ったことを、音楽のしくみと結び付けて考えることができた」の子どもへの質問の肯定的回答を70%以上にする。 〔検証結果と考察〕 「聴き取ったことや感じ取ったことを、音楽のしくみと結び付けて考えることができた」に77.7%の肯定的回答を得ることができた。常に、知覚・感受したことを、共通事項を手掛かりに音楽のしくみと考えるような授業づくりに努めた成果であると思われる。 | | | | |
| | | 【見込まれる成果2】 グループ活動などで、互いの考えやイメージを「音楽を形作っている要素」や「音楽のしくみ」に着目し交流する対話的・協働的な学びの中で、音楽表現を工夫しよりよい音楽をつくっていかうとする力が育成される。 《検証方法》 「音楽の要素やしくみに着目し、どのようにしたらよりよい音楽になるかなど、友達と話し合ったり試したりしながら学習に取り組めたか」の子どもへの質問の肯定的回答を80%以上にする。 〔検証結果と考察〕 「音楽の要素やしくみに着目し、どのようにしたらよりよい音楽になるかなど、友達と話し合ったり試したりしながら学習に取り組めたか」に、74.6%の肯定的回答を得る結果となり、目標にはわずかに届かなかった。自分の中には思いや意図を持てても、それをうまく音楽として伝えて練り上げるところが難しい子どもへの働きかけをより充実させ成就感を味わわせていく必要がある。 | | | | |
| | | 【見込まれる成果3】 基礎的な技能を身につけ、「このように表現したい」という思いや意図をもち、表現したり味わって聴いたりする力が育成される。 《検証方法》 「こんなふうに表現したいという思いやこんなふうに表現しようという意図をもって表現したか」の子どもへの質問の肯定的回答を85%以上にする。 〔検証結果と考察〕 「こんなふうに表現したいという思いやこんなふうに表現しようという意図をもって表現したか」に、80.6%の肯定的回答を得る結果となり、目標にはわずかに届かなかった。個の思いをグループや全体で、どのように表現に生かしていくのか、協働的な学びとして引き続き研究していく。 | | | | |

| | | |
|---|-------|--|
| 6 | 成果・課題 | <p>【見込まれる成果4】 心を合わせて表現を生み出す音楽の楽しさを体験したり、多様な感性・文化に触れたりすることで、音楽を愛好する心情と音楽に関する感性が育まれることが見込まれる。</p> <p>《検証方法》 「多様な音楽や文化に触れたり、表現の機会を設けたりした」の教員への質問の肯定的回答を85%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 「多様な音楽や文化に触れたり、表現の機会を設けたりした」に、90%の肯定的回答を得ることができた。コロナ禍の制限があり、また、限られた学習時間の中で、教科横断的な学習活動を取り入れるなどの工夫の成果である。</p> <p>【見込まれる成果5】 市内各校の研究成果を共有したり、他都市の研究成果に触れることで、研究が深まり指導力の向上が見込まれる。</p> <p>《検証方法》 「研究活動は充実していた」の教員への質問の肯定的回答を85%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 「研究活動は充実していた」に、90%の肯定的回答を得ることができた。今年は、全国大会も近畿大会も参加することができ、他都市の研究成果を情報共有することができた。また、報償費を有効活用することで各領域にとって著名な講師の方を招き、研修を持ち、資質向上に努めることもできた。</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。 今年もコロナ禍で、音楽科教育に関して様々な制限がある中で感染症対策をとりながら研究を進めることとなった。昨年度までの成果と課題を踏まえ、次年度の大会に向けて研究の焦点を絞りより具体的な研究を進めることができた。限られた学習時間の中でICT機器の効果的活用にも取り組んだ。 現在、大阪市ではブロックごとに2社の教科書が使われており、研究を進めるうえで、「歌唱共通教材」を中心とした授業を研究することで、全市で同じ研究実践を積み重ね検証することができた。それに伴い、評価をより充実させるため、1枚ポートフォリオの活用やルーブリックの作成にも取り組むことができた。 今年の成果を次年度に引き継ぎ、近畿大会においてその成果を発表する予定である。 そして、一刻も早く、制限のない音楽科の学習ができるようになることを切望している。</p> <p>《代表校園長の総評》 コロナ禍での研究が3年目。今までの成果と課題を踏まえ、次年度の近畿大会の成功に向けてより研究を具体的に焦点化して進めることとなった。新しい研究の方向性の共有から始め、新指導案の形式を理解し、授業についての評価についても研究を深めた。歌唱共通教材を中心とした授業実践なので、教科書が異なっても全市で一斉に実践を交流することができた。すべての部員が限られた授業時間を大切に日々実践を積み重ねてきた。他都市の研修会も開催され、積極的に参加した。ただ、大阪市音楽交流会は実施できないままである。 今年度の成果を、さらに次年度も継続して磨き上げ、近畿大会でその成果を発表する予定である。一日も早く制限なく音楽活動ができることを願っている。</p> |
|---|-------|--|